



鶴ヶ城 (会津若松市)

あかがわら てんしゅかく 赤瓦の天守閣 ここだけ

県内で最も有名な観光地といったら、会津若松市の鶴ヶ城。1593（文禄2）年に蒲生氏郷が天守閣をつくり「鶴ヶ城」と名付けました。屋根の瓦は黒色でしたが、初代会津藩主の保科正之が、丈夫な瓦にしようと、上薬を塗って焼いた赤瓦に替えました。1868年の戊辰戦争では攻撃を受け、1874年に明治政府の命令で天守閣や城の建物が全部壊されました。今の城は1965年に建て直されたものです。黒い瓦でしたが2011年に赤瓦に変更され、昔の姿がよみがえりました。国内に残っている城の中で赤瓦の天守閣は鶴ヶ城だけです。

【メモ】地面から天守閣の一番上までの高さは約36・15m。天守閣の中は博物館になっています。会津の歴史などが学べます。2023年は天守閣に約50万6千人が訪れました。

▲ 5月8日 福島民友新聞掲載

きじをよんでおもったこと、みんなとはなしてかんじたことをかこう。